



Cisco Discovery Protocol サポート

この章では、Cisco Discovery Protocol（CDP）の概要を説明します。この章の構成は、次のとおりです。

- [CDP Advertisement Support \(P.22-2\)](#)
- [CDP 設定のチェックリスト \(P.22-4\)](#)
- [参考情報 \(P.22-5\)](#)

Cisco Discovery Protocol は、ネットワーク上の Cisco デバイスのディスカバリを行います。CDP を使用して、Cisco CallManager サーバを検出し、検出したサーバを CiscoWorks2000 から管理できます。

CDP Advertisement Support

Cisco CallManager は、CDP Advertisement Support を使用して、アクティブ インターフェイスに関する CDP メッセージを指定のマルチキャストアドレスに定期的に送信します。これらのメッセージには、デバイスの識別、インターフェイス名、システム機能、存続可能時間などの情報があります。

CDP をサポートしているシスコのデバイスであれば、定期的に送信されるこれらのメッセージを使用して Cisco CallManager の場所を特定できます。たとえば、デバイスは近接するデバイスの CDP キャッシュを使用して、Cisco CallManager エージェントの IP アドレスを特定します。

デフォルトの CDP 設定値

表 22-1 に、デフォルトの CDP 設定値を示します。

表 22-1 デフォルトの CDP 設定値

説明	デフォルト値
デフォルト送信頻度	60 秒
デフォルト存続可能時間	180 秒
デフォルト ステータス	CDP アドバタイズメントは使用可能

CDP ドライバ システムの前提条件

CDP は、10/100BaseT イーサネット ネットワーク インターフェイス カードを備えた Cisco Media Convergence Server 上で Cisco CallManager と連動する、Windows 2000 のプロトコル ドライバです。CDP は、トークンリング、ATM、Windows NT プラットフォーム（Windows 98 や Windows NT 4.0 を含む）など、他のメディアをサポートしていません。

CDP ドライバの使用

Cisco CallManager を開始すると、CDP ドライバが使用可能になります。CDP を使用すると、CiscoWorks2000 によって Cisco CallManager システムのディスカバリと管理を行うことができます。



(注) 詳細については、[P.18-3](#) の「[SNMP 管理情報ベース \(MIB\)](#)」を参照してください。

CDP ドライバ制御へのアクセス

CISCO-CDP-MIB を使用すると、CDP ドライバを制御できます。詳細については、[P.18-3](#) の「[SNMP 管理情報ベース \(MIB\)](#)」を参照してください。

CiscoWorks2000 の使用中は、常に CDP ドライバを使用可能にして、Cisco CallManager をディスカバリできるようにしておく必要があります。

CDP プロトコル ドライバのインストール

CDP ドライバは、Cisco CallManager のインストール時にインストールされます。Cisco CallManager インストールが正常にインストールされると、Windows 2000 コントロール パネルのデバイス ドライバリストに CDP プロトコル ドライバが追加されます。

アップデートされた CDP ドライバとインターフェイス ファイルの場所

Cisco CallManager をインストールすると、次のコンポーネントがアップデートされます。

- CDP ドライバ (cdp.sys)。
- CDP インターフェイス ライブラリ (cdpintf.dll)。
- CDP レジストリの再インストール用のバックアップ **Regedit** エクスポート ファイル (cdp2k101.reg)。CDP レジストリが破壊された場合は、このファイルを使用して CDP レジストリを復元します。



(注) cdp2k101.reg ファイルを実行した後、CDP レジストリを復元するためにシステムのリセットを実行する必要があります。

CDP 設定のチェックリスト

表 22-2 は、Cisco Discovery Protocol を設定する手順の概要を示しています。

表 22-2 CDP 設定のチェックリスト

設定手順	関連する手順と項目
ステップ 1 Cisco Discovery Protocol について、CiscoWorks2000 ユーザ マニュアルで確認します。	http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/rtrmgmt/cw2000/index.htm
ステップ 2 CDP が Windows 2000 のプロトコル ドライバであることを確認します。	http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/rtrmgmt/cw2000/index.htm
ステップ 3 CDP プロトコル ドライバをインストールします。	『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の「CDP プロトコル ドライバのインストール」
ステップ 4 CDP プロトコル ドライバを開始します。	『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の「CDP プロトコル ドライバの開始」
ステップ 5 CDP ドライバを有効化します。	『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の「CDP プロトコル ドライバの有効化」 『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の「SNMP の設定」

参考情報

関連項目

- 第 18 章 「SNMP」
- 第 19 章 「CiscoWorks2000」
- 『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の第 25 章 「CiscoWorks2000 の概要」
- 『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の第 28 章 「Cisco Discovery Protocol サポートの設定」

参考資料

- CiscoWorks2000 ユーザ マニュアル
<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/rtrmgmt/cw2000/index.htm>

